

WIN CONCORD

コンコード

NEWSLETTER

2005
vol. 15



桜より美しいもの

李 淑 (中国)

「おはようございます！私は和歌山大学経済学部で勉強している李淑と申します。日本に着いて1ヶ月しか経っていませんが一度しかないスピーチコンテストだから日本語力をアピールしようと思ってこの場に立ちました。」

懐かしいです。これは私が日本に来たばかりの時したスピーチの前書です。今日は最後のスピーチで大事な皆さんに私の気持ちを伝えようとしてこの場に立ちました。

あっという間に帰国することになりました。日本に来たのが昨日のようなのに…

私は今も覚えています、飛行機から見た日本を…山に山が重なっていました。その山の谷間を建物が川のように流れていました。かわいい国だなと思いました。今もこのイメージ通りです。でも帰りの飛行機から見る日本はたぶん皆さんの笑顔が山のように重なって映りそうです。

桜の季節に花びらが散っている下を散歩するのが小さい頃の私の夢でした。

私の学校には色々な木がありました。中でも私は一つの木が大好きでした。春になると自分の身を真っ白に飾る木がありました。なぜか分からないですが私にとってこの木は特別な存在でした。暑い時私に陰を与え、雨の時私に傘になって中学校の三年間を伴ってくれました。いつかこの木の下にいる私に日本語の先生がこのように教えてくれました。

「李さんこの木が好き？この木は桜で、日本のシンボルの花ですよ。日本語が上手になるといつか日本に行って大好きな美しい桜の花を見る事ができます。そして桜の花びらが散っているその下を散歩することもできますよ。その時、あなたの人生も美しい桜のように立派な人生になるでしょう。」その時、先生の話は私の胸に根を下ろしました。「私はきっと日本に行って桜を見る。」小さくて美しい夢でした。

今、私は日本に来ました。夢にみた桜を見にきました。が、私が来たタイミングが間違っていて残念ながら桜を見ずに帰ります。



「半年だけで短いですね！もっと長かったら良かったのに…」とよく言われます。でも短い時間でも日本に來られて良かった。私はいつもこんな気持ちを持って日本での一日一日を大切にしてきました。皆さんのおかげでいい経験をたくさん持って帰ります。

私は今も覚えています。最初の日、何もなくてがらんとした部屋で私を迎えてくれた真っ白い布団を見た瞬間の感動を。ふわふわして柔らしい手触りがまるで母が優しく撫でるようでした。暖かさが心まで伝わってきました。不案内の外国でもそんなに怖くはありませんでした。つまらないことかもしれませんが私にとっては大切なものでした。私の日本での生活の始まりでした。いいスタートでした。

どこに行っても私は優しさと思いやり、励みを感じることができました。

辞書を開いて見れば「思いやり」を「同情心」だと説明してあるのですが、私は「他人のために尽くす心」だと解釈した方がいいと思います。

韓国の有名な作家金素雲は日本に來た時の印象をこういうふうに書きました。「雨が降っている暗い夜、水浸しの小道を泥水で汚れないように足を運んでいた。急に周りが明るくなって來た。前から提灯をもった女性が歩いてきた。あの女性がこの小道を通り抜ける前に抜けようと思い、足を早めた。不思議な事に私が完全に抜けるまでずっと明るかったのので後を見るとその女性が、私が通るまで立ったままこちらの方を照らしていた。」勝手につけた翻訳なので皆さんに伝わるかどうか分かりませんが、この文章に描かれた事は日本人の「思いやり精神」を表す典型的な例だと思います。半世紀前の日本女性の小さな行為に見られたこの思いやりが今日、日本社会で変わらず咲いています。日本に來て私は桜より美しいものを見つけました。世界、世界って、「世」の中に「界」があるという意味ですね！

私は日本でその「界」を消す知恵を見つけました。つまり「ボランティア精神」です。

私が布団から感じた暖かさのように人の心を暖めるもの、何も求めなくて与えるもの、みんな一



緒に力と心を集めて頑張るもの、今度、津波のための募金で私はしみじみ感じました。

大事なお正月の間なのに家族や友達と楽しまず、ひどい寒さに負けず皆さん必死に頑張りました。寒くても、風が冷たくても、私達の心は暖かでした。言葉では描けない微妙なものがその時私達の心の間でつながりました。そのときの感動、一生忘れません。

一番直接にボランティアの恵みを受けているのが私達留学生ですね。いつも優しいお母さん、お父さんになって私達の生活を考えてくれて本当にありがとうございます。1年間、半年間の付き合いを通じて国境を超えて、心と心がつながる「相思相愛の一家人」になりました。これこそボランティア精神の本意ではないでしょうか。国境を超えて、民族を問わずに心と心がつながるボランティア精神…私はいつも、日本に來て本当に良かったと思います。

学校で知識を勉強すると同時に生活の中で日本人の知恵を習っています。日本に來て私が今から必ずやらないと行けないことを見つけました。私が受けた大きな「愛」を中国の人々にも伝えたい。

「無償の愛を…」私は中国に帰って、つまり中国と日本の架け橋となって、中国と日本の交流、そして人と人の心をつなげるボランティア活動に自ら積極的に取り組みたいと思います。

中国の先生は桜の大好きな私に「あなたの人生も桜のように立派に美しくなるでしょう。」と伝えてくれました。その言葉を胸に中国に帰っても前向きに頑張っていきたいと思います。

リセットできぬ思い出

裘 少 華 (中 国)

日本での毎日には常に新しい出来事がある。ついに、二ヶ月前から準備してきた和太祭の幕が開いた。

夏休みが始まる前から、和太のキャンパスのあちこちに大学祭の看板が置かれていた。「模擬店を出そう」などのスローガンが書かれていたから、初めて見た時、大学祭というのは一体何なのか分からなくて、日本人の友達に聞くと、友達はいびくりした顔つきで「ええ、中国の大学には大学祭なんかないの？そしたら、その時になってから、自分で答えを探そう。面白いよ。」と私に言った。その時から、私は一日も早く和太祭が始まることを待ち望んでいた。その間、留学生たちが「世界料理店」を出すということを知り、好奇心はますます強くなった。

暫くしてから、本番の日が訪れた。朝早く、他の留学生たちと一緒に、WIN コンコードのメンバーの車に乗って、学校に向かった。作った料理がよく売れるかどうか心配だったので、商売策略を相談した。あっという間に学校に着いた。普段と違って、交通秩序を保つ大学祭実行委員会のメンバーの姿があった。それに、慣れていた学習の雰囲気と違って、キャンパスもおしゃれに飾られていた。地面に貼ってある可愛い足跡の絵が私たちを会場に案内した。

大学会館の右側の空き地にゲスト「太陽族」ライブのための舞台が設置されていた。日頃よくベンチに腰かけて本を読んでいる姿が見える細道に沿って、学生たちが心を込めて飾りつけたさまざまな店が並んでいた。たこ焼き、豚汁、せんべいなど、いろいろな食べ物が販売されていた。扱っている食べ物によって、店の飾りも違っていた。しかし、どのような飾りにも、学生たちの工夫が見られた。留学生たちが出した「世界料理店」が一番目立つと思った。各国から来た留学生が自分の国の料理を作って、民族衣装を着て、一緒に一つの店を出すのは、面白くて珍しかった。だからこそ、世界料理店の商売は盛んで、大成功だった。もちろん、作った料理が美味しいゆえに人気が高かったのは言うまでもないが、システム工学部の前の広場はフリーマーケットの溜まり場になっていた。普段使わないものや使ったが捨てるのが惜しいものや買ってから使ったことがないものがその場に登場していた。出店した人は学生だけでは

なく一般の市民の方々もいた。和歌山大学文化部連合会所属団体からたくさんのクラブも参加し、楽しいパフォーマンスを繰り広げ、和太祭に花を添えた。

「和～NAGOMI～」をテーマとしての和太祭を経験した私は、日本の大学祭と言え、学生、職員、地域の方々の触れ合いの場と感じた。模擬店を出すことやクラブのパフォーマンスを披露することは皆で協力して行うことだ。それにより、さまざまな行事がスムーズに進んでいく中で、学生の交流ができて、仲良くなり、クラブがひとつになる。地域住民の参加によって、地域との交流もできる。大学生にとって、大学祭は社会に入る前のいい経験だと思う。それと共に、中国で経験した大学祭のことを知らず知らずのうちに、思い出していた。

中国の大学でも大学祭のような行事がある。「外国語週」や「電影週」や「科学技術週」や「社団文化週」(社団というのは学校の中のクラブということである)などさまざまな学生による活動がある。しかし、日本の大学祭のようにいろんな分野にわたって活動を展開するのと違って、中国における大学祭は分野ごとにプログラムを作る。一つのプログラムには一年中の違う時に一週間費やされる。例えば、「外国語週」の期間中は、英語のスピーチコンテストや英語の演劇の公演や英語の論文のコンテストとかある。「電影週」の時には今一番話題になっている映画の紹介や放映などがある。「科学技術週」はハイテクに関することが得意な学生たちの舞台だ。ホームページを作るコンテストやソフトウェアの設計コンテストなどが行われる。また、現在の科学分野で最も新しい技術や知識を紹介したりする。「社団文化週」は各社団が普段一杯練習したパフォーマンスを披露する時期だ。歌や踊りや演劇やバンドの演奏やスポーツの競争などがある。フリーマーケットもある。



ところが、これらの行事は殆ど学生向けだ。つまり、参加できる人は学生に限っている。地域との交流といえば、キャンパスの主な道で出した地元の企業や店のポスターや広告板だと思う。行事が行われる時、学校から一部の経費をもらえるが、それだけのお金はやはり足りない。経費を集めるために、活動を主催する学生組織のメンバーは地元の企業や店を訪ねて、スポンサーを探す。お金をくれたスポンサーを宣伝するためにポスターや広告板を出す。一般の市民は大学のキャンパスに入って、学生の成果を見るのはめったにない。学生と地域との交流は日本の大学祭と比べたら、まだ物足りないなと感じた。だが、中国の大学生にとって、これらの行事もいい訓練だ。学生生活は多彩になり、実行する能力を養うことができ、充実した学生生活になる。

私は幸運に恵まれた人だと思う。交換留学生として来日し、二つのタイプの大学祭が体験できた。中国の大学祭を何回も経験したが、今回の和太祭は日本での初めての大学祭だった。和太祭は一年に一回しかないそうだ。しかも、毎年、テーマや趣向も違う。だから、今回の和太祭で作られた思い出や感動はリセットできず、ずっと記憶に残る貴重な経験だ。

トヨタ自動車見学とスキーの旅

ショート ダミサ (タイ)

私たち和歌山大学留学生はトヨタ会館と工場を見学しに行きました。トヨタ会館は愛知県豊田市にあります。ここではトヨタが目指しているトヨタ社会と最新の車づくりを展示物や映像で分かり易く紹介しています。トヨタ会館は6つのコーナーに区分されていて、テーマごとにたくさんの説明がありました。

1. Hybrid Contribution Room
2. Good Thinking, Good Products Room
3. Intelligent Safety Room
4. Social Contribution Room
5. Motorsports Room
6. Showroom

私の一番感激したのは Intelligent Safety Room です。あそこの未来のパーソナルモビリティという車を見て、もしその車が本当にできたら、すごいと思いました。しかし、一番人気がある所は Showroom でした。そこには、たくさんのすば

らしい車があって、乗ることもできるからどの留学生も車に乗って、たくさん写真を取りました。その日トヨタ会館を見学に来た人は私達だけではなくて、日本人も外国人の見学者も多かったです。一番多かったのは中国人でした。

トヨタ会館で1時間ぐらい見学して、その後トヨタの会社の人と一緒に食事しながら、トヨタ会社について懇談したり、質問をしたりしました。食事した後、トヨタ車の工場を見学に行きました。そこで、工場のシステムとか工場のロボットのことなど案内の人から説明してもらいました。いい勉強になりました。

午後5時ぐらいホテルに着きました。とてもきれいな日本式のホテルでした。

その晩留学生たちと WIN コンコードの方々は一緒に鍋を食べたりカラオケを歌ったりしました。おいしくて、楽しかったです。

二日目のスケジュールはスキーです。朝早くホテルを出発して、ひるがのというスキー場へ行きました。出発する前に小さい雪がいっぱい降ってきました。とてもきれいで感動しました。スキーの経験がある人は自由に遊ぶことができましたが、スキーをしたことがない人は2グループを分かれて、スキートレーナーと勉強しました。午前中、経験がない留学生たちはずっと練習して、滑ったり、転んだりしました。

午後1時から4時まで私たちはスキートレーナーと一緒に遊びました。午前中たくさん練習して、もう上手になっていると思ったのですが、まだ何回も転んでしまいました！痛くて、恥ずかしかったですけど、すごく楽しかったです。他の友達も何回も転んでもまだ頑張ってやっていました。みんな最高！！

今回の旅行はすごくつかれましたが、WIN コンコードの方々と友達たちと旅行できて、たくさんいい思い出を一緒に作れて、本当に良かったです。



シャンソン演奏会からの思い

張 碩 (中国)

毎年、WIN コンコードの主催でいろんな活動がわれわれ留学生のために開かれています。お花見、スキー旅行、工場見学、パーティ、講演会、音楽会の招待など、たくさんの文化交流の機会を提供してくれています。おかげで孤独気味の留学生活に色取りを添えることができました。

一年前、生まれて始めて生の演奏会を聴くことができました。現場でしか得られない音楽の臨場感とその迫力が今になっても時々思い出せます。音楽は国境のないものであり、人と人との間に心的な交流を助ける媒介である。現代社会はボーダレス化されつつありながらも、人々の間および国々の間に疎外感が膨れるばかりです。昨今の国際情勢を振り返ってみて、少し遠くからの朝鮮戦争の勃発から、ベトナム戦争、冷戦を経て、そして 89 年の冷戦終結を区切りに新たな国際的な混乱状態を見せ始め、世界各地に大小の紛争が後を絶たない。紛争の背後にいろんな原因が見え隠れしているが、互いの文化の違いを認識し合い、利益のすれ違いを事前に調整する努力が不十分で、公式・非公式のコミュニケーション不足も一因に数えられる。また、身近な隣近所関係をみても、生活ペースの加速で過量の仕事に追われ、限られた時間がどんどん潰されてしまい、睡眠時間さえ取れなくなるぐらいの、疲れ切れの毎日がとても近所関係を云々する余裕がないように見えます。心と心の距離がますます遠く離れていく時、音楽が疑いなくこの距離感を縮め、外界に存在する遠心力を和らげる役割を果たす。

シャンソン演奏会の後日、感想文を頼まれたので 1 ページ書いてみました。当日の音楽に対する自分の理解が詰まっているので、その後読むたび



に、演奏会当日の風景がそのまま目の前に見えるように生々しく映ってくるのです。当時の感動がこれだけ強かったのです。以下はこの感想文の全文です。どれだけ共鳴と共感を引き起こせるのかわからないのですが、少なくともこれが私にとっての真実です。自分の表現力の不足を恐縮しながら、以下に引用いたします。

生まれて初めて大ホールで演奏会を聞いた。その歌、その声、その歌詞、そして当然ながら歌手新井英一、彼自身に包まれた知的で、人間味に満ちた輝きに圧倒された。完全に。

人間は誰でも初めて産声を上げてこの世を訪れた時、皆白紙状態だったといわれている。その後、色んなことを経験していく。初めての笑顔、初めて口にした単語、初めて自力で立ち上がり、初めての自我意識、初めての登校、初めての恋人、初めての……。この無数の“初め”は結局自分の人生を築き上げていくことになります。

最初、シャンソンって何だろう？人の名前かと思いました。しかし、辞書を調べてみると、意外にちゃんとした意味があることがわかった。“シャンソン→ (フランス chanson) 十二、三世紀からフランスに発達した大衆的な歌曲。現代では歌謡曲や流行歌の要素が強い。”この抽象的概念から得られた表面的としか言えない理解が、7 月 6 日当日の演奏会で感性的に体験され、深められ、そして自分の中に棲みついていた何かに共鳴したような気がする。この“何か”がこれまで自分でさえははっきりと認識していなかったが、歌手の豪快な歌声を聴いて、感じられた震撼が自分の魂の中に深く染み込んでいく時、次第に悟ってきました。それは勇気を持った自由・自我の主張であり、シャンソンの精神・真髄そのものである。

なぜかわからないが、突然映画タイタニックのワンシーンを思い出した。主人公のジャック・ドウソンが初めて参加した上流社会の豪華な晩餐会の席上、いきなり“ドウソンさんのような生き方に満足なされているの？”と聞かれて、彼はこう答えた、“ええ、満足しています。生きるのに必要なすべての物を持っていますから。…毎日、何か新しいことが起こり、…それが楽しいんです。…どんなカードが配られるのかわからなくても、それを生きるのが人生です。……毎日は大切なんです。”

まさに、そのとおりです。新井英一さんもきっとそう思っているに違いない、と思う。

文字が音楽の取替えにはならない。もし将来、あなたがシャンソン演奏会を聴く機会があれば、音楽の中に潜んだ人類精神の本質、これは人類社

会の絶え間ない前進の原動力でもあり、それを体験できるようにするでしょう。

科学技術の進歩によって、人類社会は空前の繁栄を現しています。一般の人も昔の帝王さへ体験したことのない生活が暮らせるのです。しかし一方で、貧富の二極分化も加速しつつあります。国際的な貧困格差が国際間情勢不穏のもととなり、地域紛争主要因のひとつである。まだ、一国の内部で貧富格差の加速が国に不安定な要素をもたらすのです。もしこの状態が放任し続けていけば、人類は自分自身の知恵のゆえに絶滅の一途をたどる結末になってしまう。これは杞憂かもしれない。しかし、少し危機感を持つことがまったく持っていないよりましです。未来はわれわれ一人一人の手にあります。全人類の未来はわれわれ一人一人手を繋いで共同で創っていかねばなりません。世界平和を祈ります。みんなの幸福を祈ります。

京都に恋して

李 雁 (中国)

8 月下旬ボランティアとして県立図書館で行われた子供ミュージアムに参加させていただいた。私が担当したコーナーは子供と一緒に折り紙でお寿司を折って回転寿司ごっこをするということであつた。午後こんな質問を受けた。

「李さんは好きな人がいますか。」子供たちとお母さんたち 20 人以上集まった教室の空気が沸き立つ中、「はい、京都に恋しています。」と私は京都への片思いを告白してしまった。

しかし、21 才の独身留学生として、その答えは成立するだろうか。そして自分が京都を恋愛対象としていいのだろうかとあらためて振り返った。

京都へのかなり一方的な恋心は大学一年の頃に遡る。大学入試に合格して日本語を選んだ。しかしその時は日本の歴史や文化への知識が浅く、都市と言えば東京大阪しか頭に浮かんでこないというありさまであつた。その先入観を一新したのが日本語会話の授業で目にした金閣寺、銀閣寺など京都の寺々であつた。将来日本に行って必ず訪ねに行くという夢を立てた。

初めて一人で「出会い」に行ったのは 6 月中旬であつた。その後も京都に対する興味は薄れることなく初秋のころ改めて訪ねて行くことにした。

今回最初に訪れたのは二条城であつた。二条城は徳川家康の別荘だと聞いていた。たしかに豪華なお城である。元離宮二条城に入ると、自分が見

ている部屋は遥か江戸時代、徳川家康が各地の大名を招集し、戦乱を治め天下を統一する策を作ったところだろうと思って、言葉にできない深い感銘を受けた。「虎の間」に入ると、何百年を経ても家康の天下人としての覇気は消えることなく、しみじみと感じられた。仮に家康がいなければ日本は今でも戦乱に苦しんでいるだろう。

二条城を出て急いで金閣寺へ出発した。金閣寺は京都の名所なので世界各国からの観光客も多かった。人々の流れに乗せられて知らず知らずのうちに出来てしまった。山を借景とした見事な庭園しか印象はなかった。

金閣寺から雁の寺へ行った。そこは完全予約制なので拝観できなかった。慈念が常に吸い寄せられるように眺めていた「母と子の雁の絵」も見ることができなかった。たいへん残念だった。京都は年がら年中旅行客で賑わい、騒がしいのではないかなと思われがちだが観光客や修学旅行生が訪れる場所は限られたわずかな寺や地域に過ぎない。

次に歩いて訪れた相国寺は静かで人間社会から離れた桃源郷のようであつた。その中に入るとまわりの喧騒が嘘のように消える。別の世界に踏み込んだという感じがした。数百年の風霜を経て、余分な装飾が一切排除され洗練された日本人の美意識を目の当たりにした。自分もその中に溶け込んだ。

夕方になって相国寺を出て人に知られぬこじんまりとしたお寺を何か所か訪ねた。数百年を経ても微笑み続ける仏像の姿、寺の良さ、庭園の見事に強く心打たれた。20 代前半の私にとって将来に対する漠然とした不安を慰め、静めてくれた。今回の旅は心の癒しだと言えと思った。

楽しい時間はいつも速すぎる。

ついに離れる時間になった。

「また会いに来るの？」

「はい、来るよ。」

最後に、ぼくと京都との胸の内の会話。



新留学生紹介

楊 春春 (中国)

中国の浙江師範大学から来た楊春春と申します。私は春に生まれた人ではなくても、両親は娘が春の花のように美しく、春の木のように健やかに成長すると期待して、この名前を付けてくれました。それで私は楽観的で朗らかな性格を持っています。一番好きな季節は春です。今度、桜満開の時、日本に来られて、本当にうれしいです。

4月5日、飛行機が関西空港に着陸しました。私は始めて日本の土を踏みまして、興奮しましたが、ちょっと不安でした。予定通りにリムジンバスに乗って、和歌山駅で降りました。それからどうしようかと迷っていた時、平澤先生が迎えに来てくれて、荷物を持って来て、車で会館まで連れて行ってくれました。先生はずっと待っていたとわかった時、心の中から温かいものが湧いてきました。そして、WIN コンコードのおかげで、新しい布団をもらって、家族の暖かさを感じました。本当にいいですね。

私は交換留学生として、この一年間を十分に利用して、自分の経験と日本人との付き合いを通して、本当の日本を理解したいのです。

楊 迪 (中国)

私の名前は楊迪 (ようてき) です。中国の吉林から来ました。吉林は中国の東北地方にあって、四季がはっきりしている所です。特に長白山が特有の風景で毎年大勢の観光客を集めています。

高校時代、一週間の交流活動で日本へ一度来たことがあります。その時は先生につれてもらって、いろんな所を見学して、とても楽しかったです。でも、今回日本へ来る前は全く違う気持ちでした。なぜなら、一人っきりの留学は寂しいかな、友達ができるかなと不安で一杯でした。

そんな不安を取り除いたのは WIN コンコードでした。私が日本に着いたその日に先輩が私を WIN の方の所まで連れて行ってくれました。そこで、私はとってもおいしいお鍋をご馳走になりました。そして、WIN の皆さんが親切に話してくれて、その時家族のような感じがしました。その後、私は布団や自転車を買ったり、各国の留学生たちと花見をしたりしました。ただの二週間だけで、おかげさまで充実した楽しい毎日を過ごしています。

今、私はもう日本での新しい生活を始めました。勉強すると同時にクラブ活動にも参加して、多く

の日本人と友達になりました。最初の不安は現在の「きつとうまくいけるだろう」という自信になりました。

ファイザ (マレーシア)

私はマレーシアから来たファイザです。日本へ来る前にマラヤ大学で留学生の特別なコースで勉強した。文部省学書試験を合格したあとで日本に来た。今は和歌山大学の環境システム工学部で勉強している。卒業したらエンジニアになりたい。この一年間ほかの留学生と仲良くして暮らして行きたい。今日本に住んでいるから、日本語を知ることとはとても大切であることだ。だから、今一生懸命日本語を勉強する気持ちを持っている。和歌山というところは忙しくないし、人も優しいし、和歌山の自然を楽しむことからだんだん和歌山が好きになった。日本に来る前は心配でしたが、WIN コンコードや和歌山の先生や学生たちはみんな優しくいろいろ助けてくれた。今は幸せな生活になった。日本の文化はマレーシアの文化と比べたら違うことがたくさんある。だから一番したいことは日本の文化を知ることだ。また会館の友達の笑顔によって和の日本の生活は楽しくなる。それで、よろしくお願いします。

ムンヤティ (マレーシア)

私の名前はムンヤティ・ピンティ・モハマド・ヤティドです。長いですから、いつも私のニックネームを使います。だからムンと呼んでいいです。ムンという名前は英語で「月」という意味です。アラビア語でムンヤティという名前は「希望」の意味です。

実は十七歳の時日本へきました。二週間だけでもたくさんの日本人と知り合いました。とても楽しかったです。その時から日本人ともう一度会いたいという気持ちを感じました。

今二十歳の時ももう一度日本に来ました。前と違って今回の目的は勉強です。日本語がまだ下手だからとても心配です。ラッキーな私は日本人とマレーシア人の友達がいて、たくさんのことを助けられています。だから私の問題はだんだんなくなりました。

日本へ来た日から今日までたった三週間ですけど、だんだん大人になってきました。なぜかと言うと毎日自分で料理を作って、部屋をきれいにして、それからいろいろな大きな問題でも自分で解かなければなりません。できるだけ他の人にたよらなくて「私は大人になった」と言う気持ちを感じています。

日本にいる時間は四年で長いです。将来のことはぜんぜんわかりませんが、日本での生活は楽しくて、たくさんの経験をもらうことをホープしています。

マイラ (マレーシア)

私はマイラと申します。マレーシアからの留学生です。私は一ヶ月ぐらい前に日本に来たばかりだから、日本語がまだ上手ではないし、日本の習慣もまだわかりません。これからマレーシアのことについて話したいと思います。マレーシアは東南アジアに属します。マレーシアには緑がいっぱいあります。その上、たくさんの美しいネーチャー・スポットがあります。マレーシアには三つの大きな民族があります。マレー人(私)、中国人、インド人です。マレーシアの料理は日本の料理とぜんぜん違います。日本の料理はあっさりしています。しかし、マレーシアは州によって味が違います。ある州は辛い味がたくさんあります。ある州は甘い味がたくさんあります。マレーシアのことと日本のことは同じではなくても、私にとって二つの国はすばらしいと思います。今日本に住んでいて、少しずつ日本のことに慣れていきます。マレーシアのことをいろいろ調べて、マレーシアに遊びに来てください。よろしくお願いします。

アイミ (マレーシア)

日本に留学する前の勉強は本当に大変だった。マラヤ大学の日本留学特別コースというコースに入った。AAJ「Ambang Asuhan Jepun」というコース。毎日午前八時から午後五時まで授業が続いた。勉強した科目は日本語、物理、数学、化学、と英語だった。その科目を勉強するために日本の高校の教科書を使った。前はずっとマレー語で勉強したから、全部日本で勉強するととても難しかった。日本語のクラスで毎日漢字のテストがあった。一方、科目のクラスでは小テストと単元テストが重なった。宿題も山のようにあった。一年中忙しくて、遊ぶ時間、テレビを見る時間、寝る時間もあまりなかったという忙しさだった。つまり勉強のためだけ生活していた。途中で諦めた学生が一人か二人ぐらいいた。期末試験と文部科学省試験に落ちた学生もいた。だから、合格して日本に留学できる学生はとてもよかったと思う。その大変なAAJでの時代はAAJの学生に聞いたら、誰でも「決して忘れられない時代だ。」と答えるかもしれない。これから、みんな和歌山大学でがんばろう！！

ハキーム エマヌエル (ナイジェリア)

初めまして、ハキーム エマヌエルと申します。



ナイジェリアから来ました。日本に来て、一年間たちました。日本に来る前には日本語を勉強していなかった。だから日本に来て、最初は大阪外国語大学の留学生会館に住んでいた、そこで、一年間日本語を勉強しました。しかし、日本語はまだ足りません。子供の時から経済に興味をもっていました。だから、和歌山大学の経済学部へ経済を勉強しに来ました。現在住んでいるところは、和歌山大学国際交流会館です。

ナイジェリアは西アフリカの中にあります。人口は一億三千万です。ナイジェリアは豊かな国です。たくさんの資源があります。つまり、石油や石炭などがあります。ナイジェリアは世界で六番目に石油を多く産出する国です。ナイジェリアの有名なスポーツはサッカーです。

私の家族は五人です。趣味はやはりサッカーです。週に必ず二回サッカーをします。日本で私の好きな食べ物は寿司です。そして、嫌いな食べ物は納豆です。

私の将来の夢は自分の会社を作りたいと思います。今から新しい大学生活を始めます。だから、頑張ります。よろしくお願い致します。

マテメ コリン (南アフリカ)

南アフリカから来ました。十月に日本へ来ました。今、留学生会館に住んでいます。専門は国際関係学です。修士課程で勉強するために日本へ来ました。2004年から2006年の十月まで日本にいます。修士課程で日本と南アフリカの関係を勉強します。

私は日本と南アフリカの関係をよくしたいです。私は日本人と南アフリカ人がもっとおたがいに理解できるように、私は二つの国の架け橋になりたいです。私たちはお互いに学ぶことがたくさんあります。

セシリア フェルナンデス (ウルグアイ)

セシリアです。去年の十月ウルグアイから来ました。十月から今年の二月まで三重大で日本語を勉強しました。四月から和歌山大学で勉強します。今、私は研究生です。専門はマーケティングです。文部省のおかげで日本のマスターコースで勉強します。今、留学生会館に住んでいます。マスターコースがおわったら、ドクターコースで勉強したいです。国へ帰ってから、会社で働きたいです。私はマーケティングをもっと勉強したいです。なぜなら、マーケティングはとても役にたちますから。

2004 年度 活動経過

4月4日	新入生歓迎花見 (和歌山城)
5月15日	えび祭り (加太)
5月16日	WINコンコード総会・交流会
8月7日	ぶんだら踊りの練習 (公館)
8月17日	NHK「オーイ日本」撮影 (和歌山城)
8月21日	紀州ぶんだら踊り
8/28~29日	サマーキャンプ (清水町)
9月11日	後期生送別会 (ゲストハウス)
9月15日	企業見学 (花王)
10月17日	第9回留学生の故郷を語る集い
10月24日	和歌浦ベイマラソン
11月7日	和歌山大学祭 模擬店協力
12月11日	和大スピーチコンテスト後援
12月23日	八朔狩り・植物公園緑花センター
11~3日	お正月 (ホストファミリー)
1/3~10日	大津波募金活動
2/21~22日	トヨタ見学とスキー旅行 (ひるがの高原)
3月5日	第10回留学生の故郷を語る集い
3月9日	相撲・日本文化理解 (県営相撲場)
3月25日	卒業生を送る会 (ゲストハウス)
年間	住宅紹介・入居・転居の支援 生活用品の貸与、生活情報提供 ホストファミリープログラム

スマトラ沖大津波の募金報告

インドネシアへ在日インドネシア留学生協会を通じて Pos Keadilan Peduli Umat 協会に
そして、スリランカへは、PIM, University of Sri Jayewardenepura にそれぞれ百万円ずつ寄付いたしました。ご協力感謝申し上げます。



いつも笑顔で

樊 曉萍 (中国)

時の経つのは本当に速いものですね。知らず知らずのうちに日本での留学生活が終わりにになりました。日本に到着した瞬間の光景は今でもちゃんと覚えているけど、帰国の日は容赦なく近づいてきました。久しぶりに家族や友達に会えるのはもちろんうれしいことですが、日本での友達と別れるのはつらいです。

最近いつも後輩達に「日本に来てよかったと思いますか」「日本で過ごした一年間楽しかったですか」と聞かれます。「正直に言ってよかったですよ。本当に楽しかったです。」といつもそう答えています。私にとって日本での留学生活は何よりの宝物です。この短い一年間は、私の人生をずいぶん変えました。人生というよりも、雰囲気と言ったほうがぴったりだと思います。雰囲気というものは外見のことだけではなくて、精神的な面にもっと注目したいのです。日本に来る前の私の生活は典型的な「本の虫」の生活でした。毎日の生活は、寮、教室、食堂という三つの場所をぐるぐるまわった生活でした。身につけた知識は本からもらったもの、つまり「死知識」でしかなかったもので、自分自身にすこしも自信がなかったのです。笑顔でさえなくなりました。

しかし日本での一年間の留学生活はすばらしいものでした。少しずつ私は活発になっていきました。WIN コンコードの皆さんのおかげでその前一度も経験しなかったことを経験できるようになりました。カラオケ、ボウリングは言うまでもなく、キャンプやスキーにも参加しました。いろいろ経験したので自信がすこしずつついてきました。笑顔もだんだん増えました。久しぶりに会った後輩達は私に「べべお姉さんは本当に変わりましたね。最近いつも笑っていてすごくやさしく見えますね。留学する前の笑顔なし顔は非常に恐かったけど」と言いました。「笑顔で、人生のすべてと付き合うことは大切なことだ」ということを知るようになったのは一年間の留学生活の最大の収穫でした。これからも笑顔で生きていきたいと思っています。

残念ながら楽しい留学生活があつという間に終わりをかけています。この一年間みなさんとたくさんの美しい思い出を作りました。もっと長くみなさんと一緒に遊んだり、経験したりしたいですけど、しかたなく帰国しなければなりません。それにしてもいつまでもみなさんのことを覚えていま

す。最後になりますが、この一年間いつも面倒をみてくれたみなさんに最高の感謝の気持ちを表したいのです。本当にありがとうございました。

助け合い励まし合って

任 炎 (中国)

和歌山大学で勉強していた二年間はあつという間に終わったような気がしています。この二年間を通して、充実した勉強生活と楽しい留学生活を送れて、本当に良かったと思います。

この二年間において、新たにいい経験をしました。私は和歌山に来る前にずっと三重県に居ました。和歌山の地理も環境も全く知らなくて、知人も居ませんでした。その状況の中、WINの皆さんに大変お世話になりました。本当にありがとうございました。楽しい思い出を一杯作りました。夏のキャンプ、冬のスキー旅行、どれも忘れられない体験でした。そして、WINのおかげで、留学生同士交流の場が増えてきました。そしてたくさん外国人に対して優しい日本人と出会えました。日本社会でいろんな偏見や差別など受けた経験がありましたが、ここで暖かい日本人の気持ちをよく味わうことができました。私にとって、日本社会に対する認識が改まりました。

この二年間は「世外桃源」のように幸せでしたが、今後社会に出て、より厳しい現実に向き合わなければなりません。そして、いつまでも今まで助けて頂いたことを忘れずに、将来挫折しそうなことがあっても、それを思い出すと、きっと元気が出ると思います。

今後和歌山で勉強を続ける後輩たちに一言を言わせて頂きたいと思います。残りの学生生活を悔いのないように過してください。日本での私費留学生の生活は大変なところがありますが、周辺にたくさん優しい方々が見守っていますから、挫折があっても、挫けないように頑張ってください。そして、留学生同士も互いに助け合い、励まし合いながらいろんな困難を乗り越えなければならないと思います。この留学生活の中の苦しみを一つの試練だと思って、できるだけ自分で解決するように努力してみてください。

最後に皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。



和歌山県の国際化の現状

前和歌山県国際交流協会専務理事 出口勝美

2年前に和歌山県国際交流協会(WIXAS)で仕事をすることとなった。およそ20年前に国際交流の仕事に携わったことがある。10年一昔と言いますが、二昔前のことを思い起こしました。

国際交流とは、ヒト、モノ、カネ、情報の国境を越えた双方向の流れをいい、国際化とはその結果です。そういった認識で和歌山県の国際化の現状を10年、20年という時間軸で見えますと、大きく変わった面と、殆ど変わっていない面の両極端に気づきます。また地域単位で見えますと国際化の進展度合いはまちまちでバラツキがあり、まだら模様の現状です。

我が国の社会はこの20年で国際化が大きく進展しました。例えばヒトの交流といった分野をみますと、日本人の海外への出国者数は3.5倍、外国人の日本への入国数は3倍、外国人登録者数も2.5倍を数えるに至っております。和歌山県も例外ではありません。ほぼ同様に進化しています。とりわけ外国人留学生の受け入れ状況をみますと隔世の感を禁じ得ません。20年前は高野山大学で2名前後の留学生を数えるのみでしたが、今日では和歌山県全体で170名強の留学生を数えるに至っております。

また、企業の海外進出についても1社のみで現在のように約40社が26カ国、75地域へ海外進出するなどとは率直にいつて当時は夢想だに出来ませんでした。将来予測の難しさを嘆く以前に将来を展望するイメージネーションのなんと貧困だったことかを今改めて思い起こし、浅学非才を悔いると共に内心忸怩たる思いで一杯です。他方、本当に変わっていないなと思えることがいくつかあります。

過日、不本意ながら川柳に挑戦した。「今も尚専ら欧化が国際化」その時の作品の一つです。あまり変わっていないなと思える一つに大多数の県民の皆様方の国際交流に向けての意識の問題があるように思えます。未だ国際化とはアメリカ化或いは西洋化といった意識が支配的であるように思えてなりません。

日本の近代化(=国際化)の当初のモデルはヨーロッパ諸国でした。太平洋戦争終了後はアメリカの社会が理想のモデルであり、ひたすらそれを追及して少なくとも経済的には豊かな社会を実現して参りました。私達の意識の中に先進国アメリ

カのイメージがあり、国際化とはアメリカ化という考えが自然に醸成されてきたと言えます。今も尚、依然としてアメリカ化、西洋化が国際化という呪縛から逃れられていないと思っているのは私だけでしょうか。

和歌山県の外国人登録者数約7,100人(平成15年)を国籍別に見ますと、韓国・朝鮮の方が約3,500人、中国の方が1,300人、フィリピンの方が約900人、タイの方が約400人、ブラジルの方が約200人、米国の方が190人といった順位となっています。

和歌山県の留学生受け入れ数173名(平成16年)の国籍別順位は中国121名、マレーシア、台湾それぞれ8名、韓国6名、タイ4名、スリランカ3名となっています。

和歌山県の海外進出企業の進出先75地域(平成14年)の順位は中国29、香港7、アメリカ5、台湾、韓国、インドネシアがそれぞれ3となっています。

また、和歌山県への外国人宿泊観光客が平成16年はこれまでの約6万人から11万人と急増しましたが、その内の約83%が台湾、韓国、中国、香港からの観光客となっています。

このようなアジア諸国との国際交流が非常に活発になってきているという和歌山県の国際化の現状をみますと、和歌山県における国際化への取り組みや対応が中国・韓国を始めとするアジア諸国に重点をおかざるを得ない切実な課題や必要性を痛感させられます。にも拘らず現在の国際化に向けての取り組みの現状は依然として欧米中心といって過言ではありません。冷静にそして素直に、現実を見据えて国際化の目線を欧米だけでなくアジア諸国にシフトしていく必要があります。

そもそも国際交流の目的は？国際化の意識とはどういうことなのでしょう？このことについて論ぜられる経験や知見の蓄積ありませんが、次の四点については理解が得られるのではないかと考えます。

一点目は、国際化には、「共存」と「競争」という相矛盾する両面が含まれているということです。多文化共生社会の実現、異文化理解の推進といった取り組みは非常に重要で、国際社会の一員として「共存」に向けての相互理解を推進していくことが基本ですが、国際化には同時に冷厳な事実として国境を越えたグローバルな「競争」といった面もあることを見過ごしてはならないと思います。国際化の持つ「共存」と「競争」の両面をしっかりと見据えた「国際理解教育」が望まれます。因みに今WIXASでは、重点的取り組みの一つと

して「国際理解教育」の推進が行われております。国の補助も仰ぎながら昨年四月から当面三カ年の予定でスタートしました。このプロジェクトの推進主体は県内 NGO、NPO の皆様方で、学校現場を始め多くの関係者や県内外の関係機関、有識者さらには在住外国人との連携を図りながら、自主的に自由に進められております。WIXAS 自身もそのメンバーの一員という立場で、今流行の「協働事業（コラボレーション）」の実践です。豊富で確かな経験と知見に裏付けられた意見や主張が率直に真剣に交わされております。

ところで、蛇足ながら、国際協力に向けての取り組みは理屈めきにより一層推進すべきです。強者が弱者をを応援し庇護するのは人類普遍の原理です。この取り組みをおさなりにする事は諸外国からの尊敬や信頼を失う事につながります。和歌山県における国際協力の取り組みがあまり活発でないことを憂慮します。

和歌山県では今 44 の国際交流団体がありますが、これは他県と比べると率直に言ってその数も規模も非常に少なく且つ小さいと言えます。国際協力活動を主目的とする団体に限定しますとさらにさびしい限りです。

また、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊の和歌山県からの海外派遣者数は今、144 名ですが、これは全都道府県中最下位という現状です。

二点目は国際化に向けては国レベル（政府各省庁、国際協力機構、国際交流基金、国際協力銀行等）、地域レベル（地方自治体、地域国際協会、等）、個人レベル（NGO、NPO、企業、ボランティア等）の取り組みがあり、それぞれに多様な独自の目的を達成する為に基本的には自立性と主体性を持っているということです。20 年前と比べて個人レベルの国際交流活動が非常に活発になってきたと実感しました。国際化の担い手は結局のところ個人です。国際化の進展に伴ってその認識や自覚が高まり、自然な成り行きとして数多くのそして多様な国際交流活動が推進されていると考えます。和歌山県における個人レベルの国際交流活動が少々孤立的、閉鎖的に見えるのは気になります。個々の推進主体は、勿論自主的にそれぞれが独自に熱意をもって取り組まれているのですが、同時にお互いに連携し合いより大きな力を発揮し効果を高める努力も必要と考えます。また、国レベル、地域レベルの助成、補助等の支援を仰いでいくことも必要です。

三点目は、国際化とは中立的なものであるということです。国際化を推進することが直ちに単純に発展、繁栄につながるわけでは決してありませ

ん。国際社会の中でも珍しい単一の言語、民族、宗教という同質性の高いしかも島国、日本からすれば国際化はむしろ負の側面が多いのかもしれませんが。国際化の持つ或いはもたらす「光」と「影」の両面をしっかりと見据えた対応が必要です。

問題なのは概して地域レベルの取り組みには国際化に向けての明確な戦略性、具体的な方向性が希薄であるということです。和歌山県の国際化に向けての取り組みを海図無き航海といえ言い過ぎでしょうか？どこへ向かおうとしているのでしょうか？かつては関西国際空港のインパクトを踏まえた壮大で魅力的な国際化戦略がありました。日本経済のバブルの崩壊と共に水泡に帰してしまいました。爾来、国際化ビジョンを持ちえぬまま今日に至っているというのが現状です。大きな課題が残されたままとなっています。

四点目は、国際化への対応は不可避であるということです。和歌山県だけが孤立し閉鎖的に自立していくなどということは不可能ですし、またそういったことを県民は決して望んでいるとは考えられません。そうであるならば、積極的に国際化への取り組みを推進し、和歌山県の発展、活性化を図って行かなければなりません。それぞれの地域が目指す国際化のビジョンづくりが不可欠です。同時に、地域の発展や活性化の土台となる内外に開かれた和歌山県づくりが重要です。この和歌山県の国際化基盤の整備が本当に不十分です。ハード、ソフト両面にわたって未だしといえます。20 年前に比べて変わっていないなと思えることの一つです。

わが国の在住外国人登録者数は現在約 185 万人強、総人口 1.45 パーセントに対して和歌山県全体では約 7 千人、県人口比 0.7 パーセントということで、全国の半分程度の状況といえますが、在住外国人への支援サービスについては大きく立ち遅れているといって過言ではありません。和歌山県で外国人が安心して快適に暮らしそして地域に魅力を感じていただけるための対応が求められています。

WIXAS では一昨年より外国人の生活相談業務の充実を図る為「専門家による一日相談会」が試験的に実施されています。行政をはじめ関係機関や通訳を含め数多くの専門家、さらには NGO、NPO 関係者との連携による外国人支援サービスの仕組みづくりが漸く始まったばかりです。医療支援、災害時の対応といった大きなテーマがあると考えています。

県内各地域で国際交流活動に携わっている皆様への報告です。



さあ、まず花見だよ



そして、加太までえび祭りに



カッコいいぶんだけ舞踊団でしょ？



ビューティコンテスト？



ミャンマーのダンス♪



美味しい料理を作ってあげるよ！



あ～、助けて～



われわれ人間は、自然から生まれた～♪



料理教室をやっているの？



カラオケのマイクの数足りないね！



一緒に食べたいなあ！



わ～、太極拳武士たちが出場



この中から、新しい選手が誕生？



いらっしやいませ～



スキー旅行は最高♪

WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太2201-339
TEL073-459-3888 FAX073-459-3889
HP : <http://www.wakayama-info.net>
E-mail : win@infonet.co.jp